

各関係機関長 様

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察特殊報第4号を送付します。

平成23年度病虫害発生予察 **特殊報第4号**

1. 害虫名 チャトゲコナジラミ(*Aleurocanthus camelliae* Kanmiya and Kasai)

2. 発生作物 チャ

3. 発生経過

高知県農業技術センター茶業試験場が、高知県仁淀川町の茶園にて黄色粘着板によるトラップ調査を実施したところ、チャトゲコナジラミと疑われる成虫が誘殺された。この成虫を(独)農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所金谷茶業研究拠点を通じて、久留米大学比較文化研究所の上宮健吉博士に同定依頼した結果、チャトゲコナジラミであることが確認された。

本種は、平成16年に京都府で初めて確認され、現在までに静岡県、香川県、熊本県など18都府県で発生が確認されている。なお、本種は当初ミカントゲコナジラミのチャ系統として報告されたが、平成23年3月に新種として登録された。

4. 形態

- 1) 成虫の体長は雌が約1.3mm、雄は約1.0mmでやや小さい。前翅は紫褐色で不整形の白斑があり、虫体は橙黄色であるが白粉で覆われているため灰色に見える(写真1)。
- 2) 孵化幼虫は淡黄色で、2～4齢幼虫は光沢のある黒色で周囲に白色ロウ物質があり、周囲と背面に多数の刺毛を有する(写真2)。4齢幼虫の体長は約1.0mmである。
- 3) 卵は長さ0.2mm、淡黄色の勾玉状で、基部には短い柄があり、葉裏に産卵される。

5. 生態と被害

- 1) 本種は、亜熱帯起源で明瞭な休眠性や決まった越冬ステージはないが、越冬できるのは主に3齢及び4齢幼虫である。
- 2) 1世代に要する日数は約45日で、年間3～4世代を繰り返す。
- 3) 成虫の寿命は約4日間と短い。羽化後間もなく交尾し、主に葉裏に産卵する。
- 4) 幼虫は、孵化直後には移動できるが、定着後～4齢幼虫の期間は葉裏に固着し移動しない(写真3)。
- 5) 寄主植物は、チャの他に、サザンカ、サカキ、ヒサカキ、シキミ等である。
- 6) 被害は、成虫及び幼虫により葉が吸汁加害されるほか、幼虫が排泄する甘露によりすす病が発生する(写真4)。

6. 防除対策

- 1) 発生地域からの苗木、生葉及び人や共同利用機械などの移動による本種の拡散に注意する。
- 2) 幼虫は下位葉、成虫は新芽でよく確認されるので、定期的にこれらの部分の葉裏を観察し、早期発見に努める。
- 3) 成虫は黄色に誘引されるため、黄色粘着トラップを茶園に設置し、発生を確認する。
- 4) 卵・幼虫は葉裏に寄生していることから、深刈りせん枝などにより寄生葉を除去し、密度抑制を図る。なお、せん枝した枝葉は本種の発生源となるため、放置せず土中に埋設するなど適切に処理する。
- 5) 本種の発生を認めた園では薬剤による防除を行う。防除適期は、若齢幼虫の発生時期で、散布前に深刈りせん枝やすそ刈り等を行うと薬剤がかかりやすくなる。

- 6) 越冬時期には幼虫に対してマシン油乳剤による防除を行う。散布は、寄生の多い下位葉の葉裏にも十分に薬液が付着するよう丁寧に行う。
- 7) 疑わしい虫の寄生やすす病と思われる症状を認めた場合は、病害虫防除所または最寄りの農業振興センターに連絡する。

7. 参考資料

「チャの新害虫チャトゲコナジラムの防除マニュアル」 編集:ミカントゲコナジラム(チャトゲコナジラム)研究推進連絡会
<http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/index.html>



写真1 : チャトゲコナジラム雌成虫



写真 2 : 2齢幼虫(右)と3齢幼虫(左)



写真3 : 葉裏への幼虫の寄生状況



写真4 : 甘露によるすす病の発生状況

写真1～4は京都府農林水産研究センター茶業研究所提供

お問い合わせは、病害虫防除所(担当:平田、榎本 TEL 088 863 - 1132)または環境農業推進課(担当:朝比奈 TEL 088 - 821 - 4861)まで